

刈り取った稲を高校生に手渡す小学生



輝く稲穂 実りの秋満喫

宇和島市三間町戸雁の北宇和高校三間分校の水田で7日、生徒が育てた「こまる」の収穫体験会があった。農業機械科の1年生約15人と三間小学校の5年生約35人が協力して稲を刈り取り、実りの季節を共に楽しんだ。

両校は例年、古代米の「黒米」の田植えや稲刈りで交流している。今年は新型コロナウイルスの影響

読もう!



宇和島・三間 児童と高校生一緒に収穫

響で小学生が黒米の収穫に参加できなかったため、品種を「こまる」に切り替えた。

約14㍗の水田で小学生が鎌を使って収穫に挑戦。「鎌を当てて引く」などとアドバイスを受けながらクザクと稲を刈り取り、高校生が腕いっぱい抱えてコンバインに運んでいた。森川実海さん(10)は「慣れてくると早く刈ることができた」と充実した表情。新明珀空さん(16)は「小学生のころ同じように高校生に手伝ってもらった。違う立場で楽しめた」と話していた。(阪和舞)

令和3年10月12日付 愛媛新聞8面

掲載許可番号 d2021-1012-01